

商品名 ベタキソロール塩酸塩錠10mg「NIG」 医薬品基本情報

薬効	2149 その他の血圧降下剤	一般名	ベタキソロール塩酸塩10mg錠
英名	Betaxolol hydrochloride	剤型	錠
薬価	11.30	規格	10mg 1錠
メーカー	日医工岐阜工場	毒劇区分	

ベタキソロール塩酸塩錠10mg「NIG」の効能・効果

本態性高血圧症＜軽症～中等症＞、腎実質性高血圧症、狭心症

ベタキソロール塩酸塩錠10mg「NIG」の使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、代謝性アシドーシス、糖尿病性ケトアシドーシス、著しい洞性徐脈、洞房ブロック、高度徐脈、房室ブロック＜2・3度＞、心原性ショック、肺高血圧による右心不全、うっ血性心不全、未治療の褐色細胞腫、未治療のパラガングリオーマ	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 手術前48時間	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	希望禁止
3. うっ血性心不全又はその恐れ・疑い	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	慎重投与
4. 褐色細胞腫、パラガングリオーマ	記載場所	用法・用量
	注意レベル	注意
5. 気管支痙攣又はその恐れ・疑い、気管支喘息又はその恐れ・疑い、甲状腺中毒症、コントロール不十分な糖尿病、長期間絶食状態、特発性低血糖症、間欠性跛行症、末梢循環障害、レイノー症候群、徐脈、房室ブロック＜1度＞、褐色細胞腫、パラガングリオーマ、重篤な腎機能障害、重篤な肝機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ベタキソロール塩酸塩錠10mg「NIG」の副作用等

1. 完全房室ブロック、心胸比増大、心不全	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明

2. レイノー現象、洞停止、低血圧、心電図異常、房室ブロック、涙液分泌減少、霧視、霧視感、過敏症、発疹、うつ状態、肝機能障害、AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇、 γ -GTP上昇、LDH上昇、喘息症状、BUN上昇、尿酸値上昇、中性脂肪上昇、コレステロール上昇、高血糖、CK上昇、HDL-コレステロール低下、脱力感、インポテンス

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

3. 徐脈、ふらふら感、頭痛、めまい、ぼんやり、眠気、不眠、下痢、口渇、悪心、胃部不快感、呼吸困難、倦怠感、疲労感、しびれ感

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

4. 動悸、胸痛、目のちらつき、蕁麻疹、そう痒、幻覚、悪夢、蟻走感、胃痛、嘔吐、耳鳴、熱感、発汗、浮腫

記載場所	その他の副作用
頻度	0.1%未満

5. 心収縮力の抑制を増強、徐脈、低血圧、症状が悪化、心筋梗塞、胚死亡増加、胎仔死亡増加、心不全、気管支痙攣、房室ブロック、低血糖、急性心不全、房室ブロック<2度>、房室ブロック<3度>

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

ベタキソロール塩酸塩錠10mg「NIG」の相互作用

1. 薬剤名等：交感神経抑制剤

発現事象	過剰の交感神経抑制	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（交感神経抑制作用）を増強	指示	注意

2. 薬剤名等：血糖降下剤

発現事象	血糖降下作用を増強、低血糖状態<頻脈・発汗等>をマスク	投与条件	-
理由・原因	低血糖に伴う交感神経系の症状をマスク、 β 遮断作用により低血糖の回復を遅らせる	指示	注意

3. 薬剤名等：カルシウム拮抗剤

発現事象	徐脈・房室ブロック等の伝導障害、うっ血性心不全	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（陰性変力作用、心刺激伝導抑制作用、降圧作用）を増強	指示	注意

4. 薬剤名等：クロニジン

発現事象	投与中止後のリバウンド現象を増強	投与条件	-
理由・原因	クロニジンは $\alpha 2$ 受容体に選択的に作用し、ノルアドレナリンの遊離を抑制しているため、急激な中止によって、血中カテコールアミンの上昇が起こる、 β 遮断剤を併用すると、上昇したカテコールアミンの作用のうち、 β 受容体刺激作用が遮断され、 α 受容体刺激作用だけが残り、急激な血圧上昇が起こる	指示	注意

5. 薬剤名等：クラス1抗不整脈剤

発現事象	過度の心機能抑制	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（心機能抑制作用）を増強	指示	注意

6. 薬剤名等：アミオダロン塩酸塩

発現事象	過度の心機能抑制	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（心機能抑制作用）を増強	指示	注意

7. 薬剤名等：麻酔剤

発現事象	過剰の交感神経抑制	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（交感神経抑制作用）を増強	指示	注意

8. 薬剤名等：ジギタリス製剤

発現事象	心刺激伝導障害＜徐脈・房室ブロック等＞	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（心刺激伝導抑制作用）を増強	指示	注意

9. 薬剤名等：非ステロイド性抗炎症剤

発現事象	本剤の降圧作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	非ステロイド性抗炎症剤は、血管拡張作用を有するプロスタグランジンの合成を阻害し、血圧を上昇	指示	注意

10. 薬剤名等：降圧作用を有する他の薬剤

発現事象	降圧作用を増強	投与条件	-
理由・原因	相加的に降圧作用を増強	指示	注意

11. 薬剤名等：レミフェンタニル塩酸塩

発現事象	徐脈・血圧低下等の作用が増強	投与条件	-
理由・原因	作用（心機能抑制作用）を増強	指示	注意

12. 薬剤名等：フィンゴリモド塩酸塩

発現事象	重度の徐脈、心ブロック	投与条件	フィンゴリモド塩酸塩の投与開始時
理由・原因	共に徐脈や心ブロックを引き起こす	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.